

# 郷土資料館だより

Vol. 25. No. 2

2003. 2. 20

郷土資料館では三島に貢献された先人たちを紹介するために、そのゆかりの地に人物碑を建てました。この地図を参考に訪ねてみてはいかがでしょうか。

**世古六太夫** (芝本町・長円寺) 幕末、新政府軍と幕府軍を仲介し、戦火から救う

**滝之本連水** (伊豆佐野・見目神社南200m) 幕末が明治の俳諧の指導者

**並河五一** (泉町・本覚寺) 江戸中期、三島に漢学塾「仰止館」を開く

**五所平之助** (大宮町・菰池公園) 昭和の映画監督。三島市民として文化事業にも貢献する

**吉原守拙・呼我親子** (加屋町・林光寺) 明治初期の三島の近代教育につくす

**平井源太郎** (一番町・白滝公園) 昭和初期に「農兵節」の普及に活躍する

**福井雪水** (日の出町・妙行寺) 江戸後期「千之塾」を開き、多くの門下生を輩出する

**箕田壽平** (青木・周福寺) 明治中頃「後素義塾」を開き、教育に尽力する

**秋山富南** (問宮かわむかい公園隣) 江戸後期、郷土誌「豆州誌稿」を編集する

**花島兵右衛門・轍吉親子** (市営南二日町住宅公園前) 明治初期三島で乳業を興し、コンデンスミルクを開発する

Map labels: 三島駅, 三島広小路駅, 三島大社, 三島市役所, 三島田町駅, 三島二日町駅, 国道1号線, 大場橋, 大場駅, 大場川橋, 大場川, 至修善寺, 至裾野, 新町橋, 桑井園, 三島大社, 三島市役所, 三島田町駅, 三島二日町駅, 大場橋, 大場駅, 大場川橋, 大場川, 至修善寺.

## Map ふるさとの人物碑

# ふるさと講座

## 「三島人物碑めぐり」 9月26日(木)

講師 迫田 信行氏 (郷土資料館運営協議会委員長)

参加人数 19名

コース 楽寿園駅前口→伊豆佐野「滝之本連水」→大宮町・菰池公園「五所平之助」→一番町・白滝公園「平井源太郎」→芝本町・長円寺「世古六太夫」→泉町・本覚寺「並河五一」→加屋町・林光寺「吉原守拙・呼我」→南二日町「花鳥兵右衛門」→青木・周福寺「箕田壽平」→問宮かわむかい公園隣「秋山富南」→日の出町・妙行寺「福井雪水」→楽寿園駅前口



滝之本連水の碑 (伊豆佐野)



平井源太郎の碑 (白滝公園)

本表紙に掲載した三島人物碑は、「三島市誌」に紹介されている人物を中心に、設置条件のかなう方について、平成7年より10か所に設置してきました。これまでも人物碑の場所について尋ねられてきたこともあり、ここであらためて紹介する意味で「ふるさと講座」としてとりあげました。

今回これらを巡ったことで、三島の文化を刻んだ先人たちを知り、今までと異なった視点から郷土の歴史を振り返ることができたという、感想をいただきました。

## 「石は語るー石の博物館めぐり」 10月31日(木)

参加人数 22名

コース 楽寿園駅前口→富士市立博物館〔歴史民俗資料館→富士市立博物館→ふるさと村〕→中野地区の庚申堂→奇石博物館→楽寿園駅前口

本年度の富士・沼津・三島3市博物館合同企画展「石は語る～祈りと想い」の三島での開催に先んじて開催中の富士市立博物館を訪ねました。



富士市中野地区から庚申堂



コンニャク石 (奇石博物館)

ここでは富士市の石造物、春耕の「道しるべ」(吉原から裾野までの街道筋の道しるべ)を中心に展示していました。また常設展示、別館の資料館、公園にある移築復元された建物群を見学しました。その後、富士市内中野地区の庚申堂と庚申塔群を散策し、富士宮市の奇石博物館を見学しました。奇石博物館では、コンニャクのようにしなる石やきれいな音が出る石、また化石類や不思議な色や形をした石の展示にあらたな関心を寄せることができました。

## 「石は語るー箱根の石仏めぐり」 11月6日(水)

講師 大和田 公一氏 (箱根町立郷土資料館学芸員)

参加人数 34名

コース 楽寿園駅前口→元箱根石仏・石塔群〔磨崖仏(俗称六道地藏)→磨崖仏(俗称応長地藏)→宝篋印塔残欠(俗称八百比丘尼の墓)→磨崖仏(俗称二十五菩薩西側)→五輪塔(俗称曾我兄弟・虎御前の墓)〕→元箱根石仏・石塔群ガイダンス棟→大涌谷延命地藏→大涌谷噴煙地→姥子散策路→弘法の硯石→姥子石仏群→賽の河原→楽寿園駅前口



磨崖仏 二十五菩薩



大涌谷延命地藏尊

かつて箱根は地獄でした！鎌倉時代、この地は地獄と呼ばれ、石仏や石塔が築かれていました。今も立ち上る硫黄の煙、煮えたぎる泉がそのように連想させます。しかしまた、この地獄から救済や極楽浄土を願った、地藏信仰の霊場としての地ともなりました。

三島から非常に近い場所にあり、普段は車で通り過ぎてしまいがちな所ですが、今回は非常に神秘的な講座となりました。

## 郷土教室

### 「箱根西坂を歩いてみよう」 平成14年10月12日(土)

講師 齋藤 宏氏 (文化財保護審議委員会委員長)

参加人数 24名 (小学生及び父兄)

コース 三島駅南口→接待茶屋→山中の一里塚・徳川有徳公記念碑・かぶと石・明治天皇御小休跡→石割り坂→念仏石→願合寺地区の石畳→一本杉の石橋→雲助徳利の墓→名号碑・三界万霊塔・無縁塚→山中城内を見学(本丸→二ノ丸→二ノ丸橋→元西櫓→溜池→西ノ丸→西櫓→田尻の池→箱井戸)→宋閑寺→浅間平地区の石畳→富士見平芭蕉句碑→かみなり坂→笹原一里塚→笹原バス停にて解散



山中城跡



山中 雲助徳利の墓

接待茶屋より箱根西坂の石畳の道を下りました。山中の一里塚から始まり、途中の史跡、石仏を齋藤宏先生に解説していただき、参加した子どもたちも丹念にメモを取っていました。また、山中城では時間をとり、発掘の状況や山中城攻防戦についての解説をして頂きました。

## 浦安市郷土博物館



かりや  
館内の木造船仮屋

9月21日、郷土資料館運営委員の視察として、千葉県浦安市郷土博物館及び市川市立歴史博物館・考古博物館を訪問しました。

浦安市郷土博物館 1981年市制。  
人口12万3654 (1995)。



浦安市は、東京湾に面して江戸川をはさみ東京都江戸川区と接しています。もとは漁業で栄えた町でしたが、京葉臨海工業地域の造成にともない、水田や海面が埋め立てられました。1983年に東京ディズニーランドが開園し、現在は都市近郊型のリゾート地であり、東京のベットタウンとなっています。

古くから住む住民は、かつての漁業を主とした郷土文化を残したいという思い、また新たに仲間入りをした住民たちは郷土について知りたいとの要望から、平成13年4月1日漁師町を体験・体感する浦安市郷土博物館が開館しました。

この博物館は地上2階地下2階建てで、大きく三つの展示構成に分かれます。屋外には1950年ごろの浦安の漁師町を、移築したたばこ屋、漁師の家、魚屋などで再現し、屋内には木造船や舟大工道具の展示室やベガ舟製造の実演コーナー、そして海と共存してきた郷土を漁師が使った道具や言葉などの文化を紹介する展示室があります。



焼玉エンジン

### ボランティアグループ「もやいの会」

博物館の開館に伴い、舟大工保存会を中心に300人になるボランティア組織「もやいの会」がつけられました。博物館では「保存するだけではなく、活用することを重視している。触れるものは触って五感で感じてほしい。ボランティアとして協力してくれている元漁師や船大工らと接し、利用者にとって交流の場としたい」と位置づけました。この会員は、屋外展示室に交代で常時10人くらいが勤め、交通費・昼食代等まったくの無償で携わっています。屋外展示での案内、焼玉エンジン等の実演、ベガ舟の建造も公開しています。釘1本打つのに、ホンモノの人は説得力があると評判です。また放課後の子どもたちがやってきて、ここで異世代交流が行われます。「ボランティアが博物館を変える」と実証しています。

#### 利 用 案 内

- 開館時間 9:30 ~ 16:30 入館無料
- 休館日 月曜、休日の翌日、毎月末、年末年始
- 所在地 千葉県浦安市猫実1-2-7
- 電 話 047-305-4300 FAX 047-305-7744
- ホームページ <http://kyoiku.city.urayasu.chiba.jp/hakubutukan/>

## 三島町の栄古盛衰 1

## 明治・大正

三島町（みしまちょう）は近世の三島宿、東海道を中心とした、地域です。

日本の近代化を象徴する東海道鉄道（東海道本線）が開通した明治22年（1889）に三島町はうぶ声を上げ、戦争への道を歩み始めた昭和16年（1941）、三島町から合併により三島市へと変貌しました。この間の約50年間、三島町の盛衰は変化に富むものでした。

三島町はその始めから、苦難に満ちた出発でした。江戸時代を通じて東海道でも屈指の宿場町として繁栄を極めた三島でしたが、東海道本線の開通（当時は御殿場経由）により、箱根山を歩いて越える旅客はいなくなりました。多くの旅籠が廃業し、三島町は窮乏していきます。この後、伊豆の中心商業地域として、町並みは商店街に変わっていくのです。

中伊豆地域の人々は、地域の発展のために、

「駿豆電気鉄道」（現、伊豆箱根鉄道）を「三島駅（現、下土狩駅）」から大仁、修善寺へ引き、また、三島を中心とした北伊豆地域の町村は一丸となって三島に、新たに新設される野戦重砲兵連隊を誘致する陳情活動を始めました。

三島町と長泉村では議会が誘致を決定し、土地買収を始めました。敷地総面積66町（約

6万㎡）三島町ではこの買収費用及び陸軍省への寄付金用として、およそ25万円という巨額の町債を準備しています。

御殿場・沼津との誘致合戦にせり勝ち、大正8年（1919）野戦重砲兵第2連隊が、翌9年に第三連隊が三島町北部（現在、日大、三島北高、北中、北小、東レ）に移りました。

この後、三島は軍都として発展していくのです。約3000人の兵隊が三島周辺に居住、外出し、「静岡民友新聞」（大正13年）によれば、連隊によって三島町が潤う額は1年間で10数万円であった、と伝えられています。

連隊に商品を納入する商店も増え、軍の特需で三島はにぎわいました。

この頃、箱根山を車で越えることができるよう自動車道の整備がはじまり、大正13年完成します。また東海道線では丹那トンネル工事が本格的に始まり、とり残された町三島に、ようやく光が見え始めました。



絵葉書 大正期の大社前、久保町通り（現 中央町）  
右角は、三島銀行、広小路方向を望む（関守敏氏蔵）



絵葉書 三島大社夏祭りの市街地  
大正時代 大社から広小路方面



三島町駅（昭和6年頃・現 三島田町駅）チンチン電車は  
ここが始点で沼津へ向かった（大沼綾子氏蔵）

## 新収蔵資料

平成14年4月から10月の間に、次の方々からご寄贈いただきました。

ご協力ありがとうございます。  
(敬称略)

小笠原節子 川原ヶ谷  
「女学裁縫教授法」上下巻組 1点

安江 邦治 東京都大田区  
広重「東海道五十三次」(模造) 1点

黒澤 フク 大場  
たらい 1点  
おぶい半天 1点  
帯 1点  
人絹(羽織の裏) 1点  
生絹(平絹) 1点

名川とし子 大宮町  
爪掛下駄 1点  
足駄 1点  
雪駄 1点

関川 良之 西若町  
そろばん 4点  
ハーモニカ 2点  
一升枥 1点

一合枥 1点  
火打石 1組

井上 一雄 東本町  
糸車 1点

森山 守一 中央町  
恩賜金(北伊豆震災) 1点



「北伊豆震災要誌」 1点  
「震災復興に直面せる青壮年の覚悟」 1点  
絵葉書「北豆大地震・丹那震央地帯断層資料」 1組  
絵葉書「伊豆大震災の実況」 1組  
「駿豆大震災記念写真帖」 1点  
「三島町震災復興記念写真帖」 2点



「関東大震災画報」 1点  
「大正大震災記」 1点  
「行幸記念写真帖」 1点  
「静岡県下御巡幸記念画報」 1点  
「聖上陛下静岡県行幸記念写真帖」 1点  
「明治大正昭和 三島・修善寺」 1点

日吉 保 文教町  
ブランコ 1点



高田 修 文教町  
奉書紙 3点

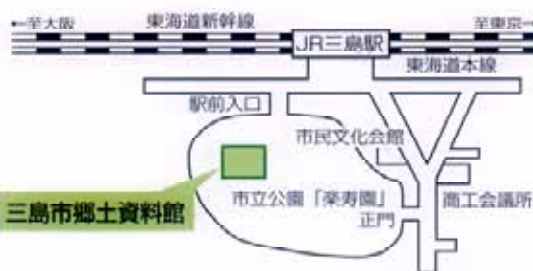
## 出版物のご案内

企画展「石は語る－祈りと想い－」の開催にともない、好評のうちに売切れました図録「石と生活」(平成4年)を再版いたしました。

「石と生活」500円  
お求めは資料館までご連絡ください。

## 利用案内

休館日 毎週月曜日(祝日の時は翌日、12月27日～1月2日)  
開館時間 午前9時～午後5時(4/1～10/31まで)  
入場無料(但し、楽寿園入場の際、有料)



●三島駅(南口)から徒歩5分。市立公園楽寿園内

郷土資料館だより VoL.25 Na2(第74号)

発行日 平成15年(2003)2月20日  
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館  
〒411-0036 三島市一番町19-3

楽寿園内

TEL 055-971-8228

FAX 055-981-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp

URL: http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo

発行 三島市教育委員会